

オーストラリア・ニューカッスルグローバル研修報告書

【研修概要】

研修目的	① グローバル社会における課題や多文化共生社会の現状・様子を直に協定校ニューカッスル大学教員の特別講義及び研修期間中の実地から学び、また、その根幹となる言語（英語）学習により、自らの考え・意見を伝える力及び異なる背景・意見をもつ人々への理解・尊重する精神を養う。。 ② 海外の学生と共に学ぶ学習や交流プログラム等を通して、異文化理解やコミュニケーション能力の向上を図る。 ③ 様々な学部等から参加する学生と共に、本学初の海外拠点があるニューカッスルやオーストラリアを知ることを通して、多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力を伸ばす。
研修場所	① 日本大学ニューカッスルキャンパス 教育棟 ② ニューカッスル大学及びニューカッスル大学 PALS 学習支援センター (Pathways and Academic Learning Support Centre)
所在地	オーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州ニューカッスル市
研修期間	令和7年8月18日（月）～9月6日（土）20日間
研修内容	① 講義 （各講義は事前学習を含む、合計5時間） ※ ニューカッスル大学教員による本研修のために特別に用意された内容でオーストラリアにおけるグローバルな課題及び多文化共生社会に関するテーマを扱う。また講義受講に当たり、事前と事後学習を実施する。 (1) Global Issues（グローバル課題） (2) Indigenous Australia（オーストラリアの原住民について） ② 実地研修（合計5時間） (1) ニューカッスル市内の地理、歴史、交通、環境等を歩いて学ぶ研修 (2) 講義 (Indigenous Australia)に関連して、ニューカッスル大学カラハンキャンパス Wollotuka 研究センターへの訪問及び意見交換を行う研修 (3) ニューカッスル大学カラハンキャンパスの研究ラボ（言語学分野予定）を訪問し海外の大学の実情を見聞する研修

	③ 語学研修（語学授業 4 1 時間（語学オリエンテーションを含む）、交流プログラム 9 時間、合計 5 0 時間） 現地で留学生向けに開講されている英語クラス（English Language Bridge Program(略称 ELBP)）に参加し、能力別クラスで英語の 4 技能（Speaking, Listening, Writing, Reading）を学ぶ。多様な国々からの留学生と勉学を共にすることにより、語学知識の修得にとどまらず、異文化や多様性を意識したコミュニケーション能力を有する人材育成を行う。 また、本学に用意されたニューカッスル大学の学生との交流プログラム等（Student-led Cultural Exchange Activities Program(略称 SEP)）を通して、教室で学んだ英語の実践やニューカッスルとのつながりを構築する。
単位認定	有 ※ ただし学生本人の単位認定希望状況や所属学部等により異なる
補助等	日本大学校友会から参加者全員に対し渡航費の寄付を受領
研修参加人数	3 0 名

【学生による研修報告書】

所属学部・研究科

経済学部

氏名

O さん

研修期間

2025 年 8 月 18 日（月）～9 月 6 日（土）

ニューカッスルでの研修を通じて、異文化理解とコミュニケーション能力の向上を強く実感した。まず、時間や約束の感覚において、日本では時間厳守が重視されるのに対し、オーストラリアでは多少の遅れを大きな問題とせず、全体的にゆとりを持った雰囲気で物事が進むように感じた。状況や文化によって価値観は異なることを理解し、柔軟に対応する姿勢の大切さを学ぶことができた。次に、アボリジニと呼ばれる先住民の方々と交流する機会では、ハンティングブーメランを実際に体験したり、伝統楽器イダキの演奏を目の前で聞いたりした。彼らが自然や祖先を深く尊重する姿勢に触れ、日本ではなじみの薄い文化的価値観を知ることができた。特に「すべてのものは繋がっている」という考え方が印象的だった。さらに、コミュニケーションのあり方にも違いを感じた。日本では相手に配慮して遠回しな表現を用いることが多いが、オーストラリアでは率直かつフレンドリーに意見を伝えることが一般的だった。そこには「以前助けてもらったから、今度は自分が手伝う」というように、互いに支え合いながら関係を築こうとする姿勢が根付いており、人間関係を相互的に捉える文化を体感することができた。授業や交流の場面では、当初は発言に自信が持てず躊躇することもあったが、積極的に声をかけてくれるクラスメイトや、笑顔で受け入れてくれる雰囲気に支えられ、徐々に自分からも質問したり、意見を伝えたりできるようになった。この経験を通して、言語力だけでなく、自ら積極的に関わろうとする姿勢がコミュニケーションにおいて何より重要であることを実感した。そして、自ら行動することで新たなつながりや学びが生まれることに気づいた。

今後の学生生活では、この経験をゼミ活動やグループワークに活かし、異なる意見を尊重しながら議論を深めるとともに、協働して学ぶ姿勢をさらに強化したい。人生においては、多様な価値観を持つ人々と協働する力を活かし、グローバルな課題解決に貢献できる人材を目指したい。今回の挑戦を通じて得た「一歩踏み出す勇気」を忘れず、今後も積極的に新しい環境に飛び込んでいきたい。

最後に、本研修にご支援いただいた日本大学校友会の皆さまに深く感謝申し上げます。皆さまのご寄付により、貴重な学びと成長の機会を得ることができた。今回の経験を糧に、今後も学業や活動に励み、より一層努力を重ねてまいりたい。